

「ふるさと納税」という制度を知っていますか。
近ごろテレビや新聞で話題に上っている「ふるさと納税」。「地場産品がもらえる」「税金が控除される」など、なんとなく知ってはいるものの、実際のところどういった制度なのかよく分からない人も多いのではないだろうか。

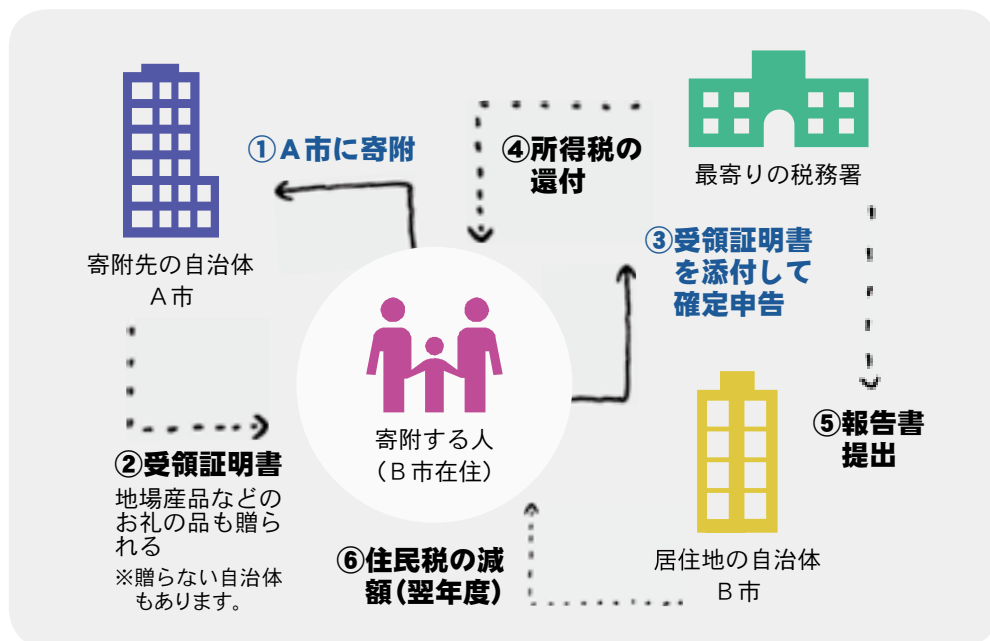
そこで、6月号の特集は、「ふるさと納税」制度について、また宇和島市の「ふるさと納税」の使い道についてお知らせしたいと思います。

おかげさまで、
あなたのふるさと頑張っています

宇和島の ふるさと納税

【問合先】総務課秘書広報係 ☎24-1111 内線2424

ふるさと納税のイメージ図



ふるさと納税とは

自分が生まれ育った「ふるさと」に貢献したい、自分との関わりが深い地域を応援したい、という気持ちを形にする仕組みとして平成20年4月30日からスタートした制度です。端的に言うと、地方公共団体（都道府県・市区町村）への『寄附』のことです。

③ ふるさと納税をした自治体の 地場産品などがもらえる

ふるさと納税をした自治体からは、感謝の気持ちとともに地元のPRを兼ねて、地場産品などが贈られます。(地場産品などを贈らない自治体もあります)自治体によって、さまざまな品が用意されており、自分の好きなものを選ぶことができます。

《宇和島市の地場産品》

- 丹精込めて栽培した「みかん」
- 自然豊かな米どころで生まれた「みま米」
- 生産量日本一の宇和島産「真珠」
- 宇和海の豊かな海で育った「海の幸」
- これぞ宇和島の味！
「じゃこ天・かまぼこ」



④ 生まれ故郷でなく てもふるさと 納税ができる

自分の生まれたふるさと(自治体)でなくても、ふるさと納税をすることができます。思い入れのあるまちや知り合いの住むまち、好きな食べ物の産地など、全国どの自治体にもふるさと納税をすることができます。

《宇和島市に住所のある人について》

市内に住所のある人でも、宇和島市にふるさと納税をすることはできませんのでご了承ください。宇和島産品贈呈については、市外への販路拡大や産業振興を目的としているためです。

① 税金が控除される

地方公共団体にふるさと納税によって寄附した場合、2,000円を超える金額について、通常の寄附金控除(所得税、住民税)のほか、住民税については特例控除が適用されます。

※「ふるさと納税」を利用して税金の控除を受けるためには、寄附をした翌年(2月～3月)に、確定申告を行う必要があります。

※控除される金額には上限があります。控除額の上限は年収や家族構成によって異なります。

詳しくは、寄附したい自治体のホームページや窓口などにお問い合わせください。

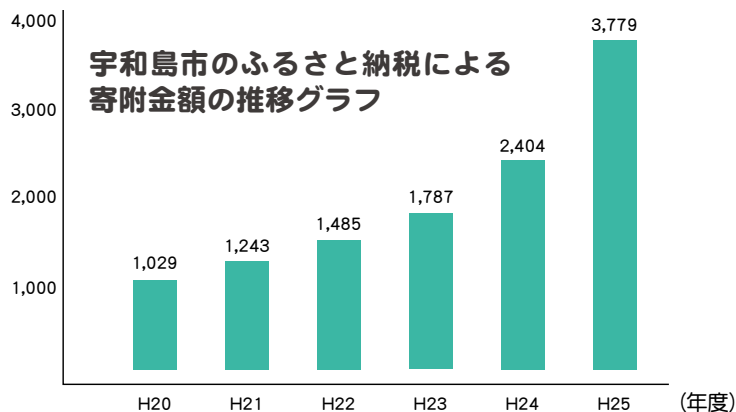
② 寄附金の使い道を 指定できる

募金や基金は、寄附した側がその使い道を知ることとはほとんどありません。しかし、ふるさと納税においては、多くの自治体で使い道の指定を可能にしていたり、どのような事業に使ったかの公表を行っています。自分が応援したい自治体の、応援したい事業や分野などにピンポイントで寄附することができ、その事業を遂行するための資金として自治体によって活用されます。

《宇和島市の寄附金の5つの使い道》

- 環境 … 海・山と共生するための環境保全に関する事業
- やさしさ … 安心・思いやりのあるまちづくりの推進に関する事業
- 教育 … 子どもの教育環境の整備に関する事業
- 歴史・文化 … 先人から引き継いだ歴史・文化の継承に関する事業
- その他 … 目的達成のため市長が認めた事業

寄附金額(万円)

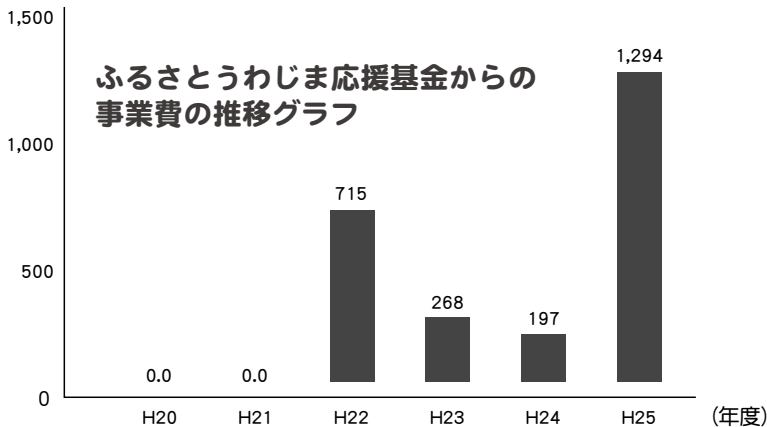


我がまち宇和島市も
たくさんの方に
ふるさと納税をして
いただいています

私たちの住む宇和島市も、ありがたいことに全国各地の皆さんからふるさと納税による寄附をいただいています。

これからも、より多くの人に宇和島市を応援していただけるよう、今年9月からは、利便性の高いクレジットカードによる寄附の収納も開始する予定です。

事業費（万円）



宇和島市を元気にする事業に活用されています

「ふるさと納税」としていただいた寄附金は「ふるさと uwajima 応援基金」として、平成22年度から宇和島市を活性化するための事業に活用されています。

ここにも、あそこにも！たくさんの宇和島を思う人たちの気持ちがいっしょにつづりになってきています。平成25年に「ふるさと uwajima 応援基金」を活用して実施した事業を紹介します。

平成25年度に「ふるさと uwajima 応援基金」で実施した事業

電気自動車 およびEV充電 設備導入事業

担 当：生活環境課
充当額：2,265,500 円
（総事業費 2,905,500 円）
実施期間：4/1 ～ 12/26



9月24日、本庁に電気自動車1台を公用車として導入し、あわせて公用車専用の普通充電設備を設置しました。

電気自動車は、ガソリン使用量を削減し、CO2排出量を低減させることができます。また、車両に「ふるさと uwajima 応援基金」と表示し、ふるさと納税制度の宣伝カーとしての役割も。また、車両には非常用補助電源設備を装備しており、災害時の活用も期待できます。

中心市街地 活性化事業

担 当：商工観光課
充当額：3,856,500 円
（総事業費 6,856,500 円）
実施期間：5/23 ～ 3/14



商店街を拠点に、まちの活性化を考える「まちの担い手」を育成し、地域住民の自主的な活動が活発に行われる仕組み作りを行うことを目的として実施しました。

まず、中心市街地の基礎調査や先進的な事例の情報収集などを行い、まちづくりの課題やアイデアなどについて、自治会役員・商店街店主などを対象にヒアリングを行いました。その後開催した4回の「おまち会議」では、同じ地域で活動する主体同士の連携意識を育むことができるプログラムを実施しました。今後は、作成した「おまち読本」を活用して、より具体的に動き出す形を想定しています。

みかんで安全 「カーブミラー」 設置事業

担 当：企画情報課
充当額：97,125 円
（総事業費 97,125 円）
実施期間：4/1 ～ 11/20



市道の既存のカーブミラーに、アルミ複合板で作成したミカンの葉っぱを取り付けました。ミカン型をした全国唯一のカーブミラーで、市内5ヵ所に設置しています。

宇和島の第1次産業をアピールし、観光資源・まちの話題作りにも期待ができます。

また、子どもたちのカーブミラーへの関心を高めることで、正しい交通ルールを学ぶためのきっかけとなり、子どもたちの交通安全向上にも期待ができます。

高等教育機関と 連携した 宇和島農業の未来を 担う人材育成事業

担 当：産業未来創造室
充当額：1,297,618 円
（総事業費 1,896,618 円）
実施期間：4/1 ～ 11/20



市内で生産されている農産物を活用した新たな加工品の試作から販売までに必要な一連の知識を、講義と実習、先進地視察などから学ぶことで、農の6次産業化を实践できる人材を育成することを目指します。

愛媛大学農学部教員のほか県産業技術研究所、県宇和島保健所などから講師を招いて講義や実習を行い、22人が受講しました。完成度の高い試作品は、道の駅での試験販売を実施する予定です。

また、愛媛大学との連携により、本講座が自治体では全国初となる、内閣府が実施する「食の6次産業化プロデューサー育成プログラム」に認定されました。

県獣「ニホンカワウソ」の楽園探求事業

担 当：商工観光課
 充当額：501,170 円
 (総事業費 501,170 円)
 実施期間：7/1 ～ 3/20



ニホンカワウソ国内最後の捕獲地である宇和島で、「ニホンカワウソによる観光まちづくり」を推進するため、調査・資料作成などを実施し、九島での野外観察会や学習会を開催しました。また、県と共同で市内に自動撮影カメラを設置して、生息状況調査を行いました。2回の研修会では幅広い世代の参加者が集まり、普段目にするものではない生き物や資料などに直接触れたり、貴重な話を聞くことで、新たな発見や興味の幅を広げるきっかけとなりました。

今後は、作成したリーフレットやニホンカワウソに関する資料を有効に利用することで、ニホンカワウソを通じた観光まちづくりを進めていきます。

宇宙の平和を祈る島

担 当：企画情報課
 充当額：462,500 円
 (総事業費 787,605 円)
 実施期間：7/1 ～ 9/23



9月23日、きさいや広場で開催された「国際平和デー2013」で、平和への祈りや想いを書いたハンカチを長くつないで平和へのメッセージとする「ハンカチメッセージ」を企画しました。当日は約900人の来場者がありましたが、ハンカチにメッセージを託してもらった小中学生の人数を含めると8,000人以上が参加するイベントとなりました。

市内にある泰平寺には、「国際平和デー」に国連で行われる式典で打ち鳴らされる「平和の鐘」のモデルとなった鐘があります。この宇和島で平和を祈るイベントを開催することで、国際平和デーについてたくさんの人に知ってもらい、世界で起きている戦争や紛争をなくすための1歩となることを期待しています。

豊穡の海、再び

担 当：水産課
 充当額：500,000 円
 (総事業費 500,000 円)
 実施期間：7/1 ～ 3/31



近年、水温の上昇を背景に昔ほど繁茂しなくなった海藻のうち、宇和島市の在来海藻である「クロメ」を栽培することで、豊かな海づくりにつなげようと実施しました。「クロメ」を人工的に採苗し、沖合で生長させることで、栄養塩類の吸収による海水の浄化が期待されるほか、小魚の隠れ家にもなります。

作業としては、秋に市水産技術センター（蔦刈）の陸上水槽内で「クロメ」を種付けし、成長した種苗を基地筏に展開しました。

今後は、加工品として「クロメ」のだし醤油の試作を行う予定です。そのほかにも、子どもたちへの環境教育を検討しています。

花満開プロジェクトみま

担 当：三間支所
 充当額：1,400,000 円
 (総事業費 1,686,334 円)
 実施期間：7/1 ～ 3/28



松山自動車道宇和島北IC～西予宇和ICが2012年3月に開通し、たくさんの観光客が訪れています。このことを開通時の一過性の事象に終わらせることのないよう、三間IC付近の土地にコスモスを植え、何度も足を運んでもらえるまちづくりを行いました。また、花づくりを通じて環境美化に対する関心・意欲を高め美しいまちづくりを進めることで、自分たちの地域に愛着を持ち後世に誇れるふるさとづくりを、との思いも込められています。

種まき作業は、三間町内の小学6年生児童56人が行いました。また、以前から開催されている「みま町コスモまつり」にも花を添え、たくさんの観光客で賑わいました。

コミュニティバスラッピング事業

担 当：企画情報課
 充当額：2,562,000 円
 (総事業費 2,562,000 円)
 実施期間：9/6 ～ 3/31



この事業は、市のコミュニティバス運行事業を市民の皆さんにアピールすることで、新規利用者の開拓と利用率の向上を図ることを目的としています。別当、吉田、三間、津島地区で運行しているコミュニティバスを、宇和島にちなんだキャラクターやデザイン（牛鬼、海、真珠、ミカンなど）でラッピングしました。今後も、皆さんから親しまれ愛される地域公共交通の確保と維持を目指します。

いただいた思いを
 地元の力にするために

このように、私たちのふるさと宇和島は、たくさんの人たちの思いに支えられています。

これからも皆さんの思いを忘れることなく、ふるさとのために何ができるかを考え続けて行きたいと思っています。

【問合先】企画情報課

☎ 24-11111 内線 2526